

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教師ノート

日付	2016年 1月 3日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	イエスさまのために自分と人々の心を備える
タイトル	バプテスマのヨハネ
テキスト	マタイ3章
参照箇所	ルカ 1:5-25、57-80、3:1-14、マルコ 1:1-15、6:16-29、ヨハネ 1:19-34、イザヤ 40:3、マタイ 11:2-6、使徒 19:1-6
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ3:2
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

新しい1年が始まりましたね。これから3ヶ月「イエスさまの生涯」についてのお話です。

はじめに、イエスさまが洗礼をお受けになったお話です。イエスさまに洗礼を授けたのは、バプテスマのヨハネという人です。「バプテスマ」とは「洗礼」という意味です。彼は、イエスさまのために準備をする働きをした人です。あなたは、新しい年がイエスさまに喜ばれる年になるように、どんな準備をしますか？

- ☞ ザカリヤとエリサベツにヨハネという赤ちゃんが生まれた時のお話を思い出しましょう。ヨハネが生まれたとき、ザカリヤは聖霊に満たされて「この子はやがて来られる救い主の御前に先立って行き、その道を準備する働きをするだろう」と言いました(ルカ1:67~80)。
- ☞ 御使いはヨハネの役割を「整えられた民を主のために用意する」と言いました(ルカ1:17)。
- ☞ バプテスマのヨハネと使徒ヨハネ(12弟子のひとり・福音書を書いた・ゼベダイの子ヨハネ)と混同しないように注意しましょう。

□ポイント1 バプテスマのヨハネは、人々に洗礼をさずけていました(1-6節)

バプテスマのヨハネと呼ばれる人が、荒野に現れました。らくだの毛で作った着物を着た男の人です。その人は、いなごと野蜜を食べて生活していたと書いてあります。あのザカリヤとエリサベツの間に生まれたヨハネが大人になったのです。

ヨハネは「悔改めなさい。天の御国が近づいたから」と教えていました。これは、「神さまに謝って罪を赦していただきなさい。心をきれいにして、もうすぐ来られる救い主をお迎えする準備をきなさい」という意味です。バプテスマのヨハネは、このようにして、イエスさまのために、民を整え、道を準備する働きをしたのです(ルカ1:17、67~80)。

多くの人が、ヨハネのところにやってきました。遠い所(エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川沿いの全地域)からも、大勢の人が集まってきましたから。その人たちは、神さまに従っていなかった罪をそれぞれに告白しました。ヨハネは、悔改めた人に、ヨルダン川で洗礼を授けました。

☆バプテスマのヨハネの顔や声、生活の様子などを自由に想像してみよう！(ひげモジャ、ガラガラ声？いなごしか食べてないから痩せていた？ 蜜ばかり食べていたから虫歯だらけ？ など)

☞ 預言者イザヤはバプテスマのヨハネの登場をおよそ700年前に預言しました(イザヤ書40:3)

☞ 洗礼を受けたい人や、もっと詳しく学びたい人は、教会の先生に相談しよう！ 洗礼は、罪が赦されたこと、そしてこれからは神さまに従っていくという決心の証です。悔改めてイエスさまを信じた人は、それだけで天国に行けますが、洗礼は、そのしるしです。水に浸って出てくる儀式は「私はイエスさまを信じて救われました。古い(罪の)自分は死に、十字架と復活によって与えられた新しい命によって生きていき

ます」ということを神さまにもまわりの人にも表すものです。イエスさまから離れないで従っていく決心ができた人は、だれでも・すぐにでも洗礼を受けることができます。

□ポイント2 バプテスマのヨハネは、イエスさまのことを教えました(7-12節)

ヨハネは、イスラエル人も悔改めて救われる必要があることを教えました。というのも、イスラエルの人々の中には「イスラエル人は、他の人種とちがって、神さまに特別に愛されているから、当然救われる」と傲慢になっている人が多かったからです。特にパリサイ派やサドカイ派の律法学者たちは、旧約聖書の律法を守っているからといって、他の人を見下していました。ヨハネは、そのような人たちに、心から神さまを愛して従うことの大切さを教えました(ルカ3:7~14参照)。

ヨハネは、後にイエスさまが来ることを教えました(人々の中には、ヨハネのことを救い主だと勘違いする人もいたので)。ヨハネは、イエスさまがどんなにすばらしいお方かを伝えました。「私は水の洗礼を受けていますが、やがて来られるイエスさまは、私よりもはるかに力のあるお方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」

□ポイント3 イエスさまは洗礼を受けられました(13-17節)

イエスさまは、洗礼を受けるためにヨハネのところに来られました。イエスさまは、この頃(30歳くらい)までは、普通の人と変わらない生活をされました。父ヨセフと同じ大工さんの仕事をして暮らしていました。伝道したり、教えたり、奇跡を現したりはなさいませんでした。神さまのご計画に従って、救い主としての働きをスタートされる時、洗礼を受けるために、ヨハネのところに来られたのです。

ヨハネは、「とんでもございません、私の方があなたからバプテスマを受けるべきではありませんか」と言いました。確かに、ヨハネが罪の無い神の子イエスさまに洗礼を授けるというのは、おかしいですね。しかしイエスさまは「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです」とおっしゃいました。これからイエスさまに従う人たちのための模範となって、ご自身も洗礼をお受けになったのです。

イエスさまが水から上がられると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って来ました。イエスさまは、それがご自分の上を下るのをご覧になりました。また、天から父なる神さまの声が聞こえました。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」こうして、イエスさまは、ヨハネによってバプテスマをお受けになったのです。

☞ イエスさまの洗礼の箇所は、三位一体の神さまが同時に現れるシーンとしても重要です。

□結論 バプテスマのヨハネはイエスさまのために用意をする働きをしました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

新しい1年が始まりました。あなたも真っ白な心で、イエスさまをお迎えしましょう。

バプテスマのヨハネは、イエスさまが救い主であることを人々に知らせました。人々が、悔改めて心を備え、イエスさまをお迎えすることができるように、準備をする働きをしました。

1. まず、私たちクリスチャンが、本当にイエスさまに喜ばれる心になるように、悔い改め、今年1年の準備をしましょう。そして「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」1年になるようにお祈りしましょう。
2. あなたにも、イエスさまのためにできることがありますね。あなたに与えられた働き・使命・役割は何でしょうか？今年、それができるように目標を立てましょう。
3. 今年、洗礼を受けたいと思う人は、その思いを先生に伝え、一緒に祈りましょう。

教師ノート

日付	2016年 1月10日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	みことばで誘惑に勝つ
タイトル	荒野での誘惑
テキスト	マタイ4:1～11
参照箇所	マルコ 1:12-13、ルカ 4:1-13、出エジプト 34:28、申命記 6:13、16、8:3、詩篇 91:11-12
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ4:4
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまは、洗礼を受けた後、荒野に行って40日も断食をされました。みなさんは、断食で腹ペコするとき、目の前に大好物を出されたら、どうするでしょうか？

□ポイント1 イエスさまは荒野で40日間断食をされました(1-4節)

イエスさまは、荒野で断食をされました。断食というのは、食べ物を食べないで、深く集中し、その苦しみにも耐えながら、神さまに近づいてお祈りすることです。荒野というのは、人が住めないような、荒れ果てた土地です。ゴツゴツした岩と砂に覆われ、雑草さえもあまり育たず、時には野獣がうろつく、寂しくて恐ろしい土地です。イエスさまは、そこで40日間も断食してお祈りをされたのです。イエスさまが、「公生涯」(イエスさまが救い主としての働きをスタートされてから十字架にかかれるまでの約3年半の期間)の始めになされたのは、40日間の断食のお祈りだったのです。

40日の断食が終わったとき、イエスさまは空腹を感じられました。そこへ、悪魔が近づいてきて言いました。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」悪魔は、イエスさまに罪を犯させて、救い主の活動開始を阻止しようと必死で誘惑したのです。しかし、イエスさまは「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある」とお答えになりました。これは申命記8:3のみことばです。イエスさまは、自分の力で悪魔と戦うのではなく、「～と書いてある」と言って、聖書のみことばだけで悪魔の誘惑に勝ったのです。

- ☞「悪魔の試みを受けるため、聖霊に導かれて荒野に上って行かれた(1節)」とはどういう意味？…神さまが私たちを悪の誘惑に導くことはありません(ヤコブ1:13)。罪のないイエスさまは、私たち人間と同じように、40日の空腹の苦しみと悪魔の誘惑を体験してくださいました。救い主として、人間の受ける誘惑をご自身も受けることによって、真に私たちの立場に立ってくださるため、神さまは、イエスさまに試みを受ける機会を備えてくださったのです(ヘブル2:17～18、4:14～16)。

□ポイント2 サタンはさらにイエスさまを誘惑しました(5-7節)

悪魔はイエスさまを神殿のてっぺんに連れていき、今度はみことばを引用して誘惑してきました。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」しかし、イエスさまは「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある」と、再びみことばで答え、悪魔の誘惑に勝利されました。イエスさまの信仰は、悪魔の悪知恵よりも、何枚も上手(うわて)なのです。

□ポイント3 サタンはイエスさまから離れて行きました(8-11節)

サタンは、まだあきらめず、さらに必死でイエスさまを誘惑しました。今度は、イエスさまを非常に高い山のとっぺんに連れて行き、この世のすべての国と豊かさを見せました。そして「もし私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう」と言いました。しかし、イエスさまは「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」と3度目もみことばでお答えになり、誘惑を跳ね返しました。イエスさまの完全勝利です。コテンパンに敗北した悪魔は、(もう勝てないとあきらめたのでしょうか)イエスさまから離れて行きました。

■詳しい解説(教師は理解しておきましょう)

◇第1の誘惑:悪魔は「救い主なのだから、石をパンに変えて、困っている人々に食べさせれば良いではないか」と投げかけている。一見、善良な提案のようだが、これはイエスに「神を信頼しない罪」を犯させ、救い主として失格させようという陰湿な誘惑であった。モーセとともに荒野をさまよったイスラエルの民は、神を信じ切れず、食べ物を要求してつぶやいた。彼らのすべきことは、食物を求めることではなく、神を信頼することであった。同様に、もしイエスが石をパンに変えて、自分と民衆の空腹を満たしてしまうなら、パンだけを求め、神への信頼を忘れてしまうことになる。このような巧妙な誘惑に対して、イエスは「パンも大事だが、最も大切なのは神を信頼する信仰である」ということを表すのに最適なみことばを引用して、悪魔の誘惑を退けたのである。

◇第2の誘惑:悪魔はイエスに「ここから飛び降りても、神が御使いを用いてあなたを守ってください。その奇蹟を見せて、あなたが救い主であることを人々が信じるようにしてはどうですか」と提案している。しかしこれも、悪魔がイエスに「神を信頼しない罪」を犯させようとする罠である。悪魔が悪用した詩91:11~12は神を信頼することの大切さを歌っている。しかし、もしイエスが神殿の頂から飛び降りるなら、神を自分の思い通りに動かし、奇蹟を行なうよう要求することになる。信頼とは、その全く逆で、神がしてくださることに全てをゆだねることである。そこでイエスは「私たちが神に何かをさせようと試みてはいけない」というみ言葉で、悪魔の間違いを指摘したのである。

◇第3の誘惑:2度までも完敗した悪魔は、今度は、巧妙な誘惑というより、強引かつ露骨な交渉に打って出たと言える。これに対してイエスは「引き下がれ、サタン」と付け入る隙のない拒絶で誘惑を一蹴した。全世界とその主権は、悪魔のものではなく、すべて初めから神のもの。礼拝されるべきは、神だけである。

□結論 イエスさまは、サタンの誘惑に、みことばで完全勝利されました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1. どんな誘惑にもみことばで勝利していこう。誘惑と戦う武器であるみことばをたくさん蓄えよう！
悪魔は、イエスさまが断食で弱っているときをねらって誘惑しました。サタンはあなたの弱点をねらって、巧みに誘惑の罠をしかけ、あなたをイエスさまから引き離そうとします。でも、大丈夫！怖がる必要はありません。イエスさまがなさったように、みことばで対抗すれば、必ず勝てるのです！人間は誰でも誘惑に負けやすいです。でも、イエスさまのみことばは、いつも完全勝利します！ みことばで誘惑に勝とう！そのためには、普段から聖書を読み、暗唱聖句をして、みことばを心に蓄えておくことが大切です。
2. イエスさまのように熱心に祈り、みこころに従う人になろう！
イエスさまは、大切な働きスタートに、まず荒野でお祈りをされました。イエスさまでも、神さまのみこころに従っていくために、お祈りは欠かせなかったのです。あなたは、イエスさまのように、熱心にお祈りをしていますか？神さまのみこころに従っていくために、また何かを始める前に、お祈りをしよう。平安・勇気・力・喜び・知恵など、必要なものはすべて与えられるよ！

教師ノート

日付	2016年 1月17日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	イエスさまを第一にしてついていく
タイトル	わたしについて来なさい
テキスト	マタイ4:17～25
参照箇所	マルコ 1:16-20、ルカ 5:1:11、ヨハネ 1:40-42
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ4:19-20
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	
<p>□導入</p> <p>イエスさまは荒野で誘惑を受けられたあと、宣教を開始されました。イエスさまは、宣教活動の一番初めに、何をなさったと思いますか？</p> <p>□ポイント1 イエスさまはペテロとアンデレを弟子にされました(17-20)</p> <p>イエスさまは「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と告げ知らせ始められました。いよいよ宣教の開始です。カペナウムという、ガリラヤ湖のほとりの町で、イエスさまは宣教をスタートされました。ガリラヤ湖は、この地方で最も大きな湖です。魚がたくさん獲れるので、この町では、多くの人が漁師の仕事をしていました。ペテロとアンデレも、漁師でした。その日も、彼らは、湖に網を投げ、魚を獲っていました。そこへ、イエスさまが通りかかれ、ペテロとアンデレが漁をしているのをご覧になりました。イエスさまは、彼らにこうおっしゃいました「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」普段と変わらない、普通の仕事の真っ最中の出来事です。ペテロとアンデレは、そのことばを聞いて、どんなことを考えたでしょうか？ 20節を読みましょう。彼らは「すぐに網を捨てて従った」と書いてあります。</p> <p>☞ イエスさまとペテロたちは、この時が初対面ではありませんでした(ヨハネ1～2章参照)</p> <p>□ポイント2 イエスさまはヤコブとヨハネを弟子にされました(21-22)</p> <p>そこからさらに進んでいったところで、イエスさまは、また別のふたりの兄弟をご覧になりました。ヤコブとヨハネです。彼らは、お父さんのゼベダイといっしょに、舟の中で網を修理していました。彼らは親子・兄弟で漁師の仕事をしていたのです。イエスさまは、ヤコブとヨハネにも弟子になってついてくるといって声をかけられました。すると、彼らはすぐに舟もお父さんも残してイエスさまに従ってついていきました。</p> <p>□ポイント3 イエスさまはガリラヤ全土を巡られました(23-25)</p> <p>イエスさまは、ガリラヤ地方のいたるところを巡って、会堂で教え、福音を宣べ伝える働きをなさいました。また、人々のあらゆる病気を癒されました。イエスさまのうわさは、すぐに全国に広まりました。それで、うわさを聞いた人々は、病気と痛みに苦しむ病人、悪霊につかれた人など、イエスさまのところに連れて来るようになりました。イエスさまは彼らを癒されました。そのすばらしさを知った大勢の群集がイエスさまにつき従うようになりました。</p>	

□結論 イエスさまは、弟子を召命されました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. どんなものよりも、イエスさまを第一にして従っていきましょう。

漁師にとって、網や舟は何より大切な財産でした。文字通り、それがないと生きていけなかったのです。しかし彼らは、それを捨てて、イエスさまに従ってついていきました。自分の財産や生活よりも、イエスさまを第一優先にしたのです。みなさんも、大切にしている物がありますね？ 男子ならゲーム機やサッカーボール、女子ならアクセサリやキャラクターグッズかな？（モノを大切にするのは良いことです）それらのモノよりも、イエスさまを第一にして従っていますか？ もっと言うと、ほとんどの人は、一番大事なのは「自分自身」ではないでしょうか。しかし、イエスさまに従うということは、自分の思いを捨てて、イエスさまを第一にすることです。いくら自分のモノや思いを大切にしても、イエスさまを失ってしまったら、何もなりません。自分の命を大切にしても、イエスさまから離れてしまったら、やがて滅びるのです。逆に、イエスさまを第一にしていけば、すべてのものは添えて与えられるのです（マタイ6:33）。

2. どんなときも「すぐに」従いましょう。

ペテロ・アンデレ・ヤコブ・ヨハネは、「すぐに」イエスさまに従ってついていきました。普段と変わらない、仕事の真っ最中に、「すぐに」従うことは、簡単なことではなかったはずですが。私たちだったら、「今は忙しいけれど、冬になったら仕事が暇になるので、都合がいたら弟子になります」とか、「家族とお別れの会をして、荷物をそろえ、銀行でお金をおろしてから行きます」と答えてしまいそうですね。あなたは、イエスさまに「ついて来なさい」と言われたら、すぐについていけますか？ お父さんお母さん、教会の先生に何か言われたとき「今テレビ見てるから」「宿題が終わったら」と言っていないですか？ もし、今イエスさまがあなたに「私について来なさい」「弟子になりなさい」と言われていると感じたら、「いつかそのうち」とか「おとなになったら」ではなく、「すぐに」従いましょう。

3. 安心してついていきましょう。

イエスさまは、「人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました。「してあげる」というのですから、イエスさまが責任をもってくださるのです。あなたの力ではありません。イエスさまを第一にして従っていくなら、イエスさまがあなたを、イエスさまの愛を伝える立派なクリスチャンにくださるのです。イエスさまは、初めからあなたに完璧な弟子になれとおっしゃる方ではありません。初めから無理なこと、難しいことをさせたりなさいません。必要なことはちゃんとイエスさまが教えて、訓練して下さいます。実際に、病気を癒したり、悪霊を追い出したり、初めはイエスさまご自身がなさいました（23～24節）。お手本を見せて教えてくださったのです。その上で、それらの働きを弟子たちに任せました（マタイ10章）。

小さくて弱い私たちでも、イエスさまに従っていく気持ちがあれば、弟子になれるのです。逆に、俺はナンデモできるから優秀な弟子になれる！ というような人はふさわしくありません。イエスさまは、ペテロのようなごく普通の漁師を選んでくださいました（祭司や律法学者のように聖書のことをよく知っている人たちは他にたくさんいたのに）。

あなたも、普通の小学生かもしれませんが、あなたにしかできない特別な使命を与えられています。自分の弱さを見るのではなく、イエスさまだけを頼ってついていきましょう。ペテロも実際に何度も失敗しました（湖でおぼれたり、ゲッセマネで居眠りしたり、イエスさまを知らないかと3度裏切ったり）。でも弟子を失格になったことはありません。絶対に見捨てられません。いつもイエスさまはともにいてくださるのです（マタイ28:20）

教師ノート

日付	2016年 1月24日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	地の塩・世の光であることを喜び、その役割を果たす
タイトル	地の塩、世の光
テキスト	マタイ5:13-16
参照箇所	マルコ9:50、ルカ14:34-35、ヨハネ8:12
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ5:13 or マタイ5:14
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

イエスさまが宣教を開始されるとたくさんの方がイエスさまの教えを聞くために集まるようになりました。イエスさまは、山の上でその人たちに色々なお話をされました。

□ポイント1 あなたがたは地の塩です(13節)

イエスさまは、人々に「あなたがたは、地の塩です」とおっしゃいました。イエスさまを信じた人たちは、地上で、塩のような役割をするということです。塩は食べ物を腐らせないようにする働きがあります。冷蔵庫が無い時代から、魚や肉を保存するために塩漬けにという方法が用いられてきました。リンゴの皮をむいた後、塩水に入れておくと、腐る(酸化する)のを防ぐことができるので、リンゴは茶色くなりません。また、塩水でうがいをするのは、塩に消毒作用があるからです。お相撲さんが土俵に塩をまくのも、昔から塩は「聖め」の役割があると考えられてきたからです。塩は、バイ菌を消毒し、食べ物が腐るのを防ぐ働きをするのです。

イエスさまが私たちを「地の塩」と呼ばれたのは、この社会が腐っていくのを食い止める働きをするからです。毎日、ニュースで恐ろしい事件を聞くのは、人々の心が汚れ、社会がどんどん悪い方へ向かっているからです。クリスチャンは、人の心をきれいにし、世の中が腐らないようにする役割を持っています。

クリスチャンがその役割をしなくなったら、誰もそれができません。塩けをなくしてしまった塩に、塩味を足すことができるものではありません。塩が塩の役割を果たせなくなったら、他のものでは代用できないのです。クリスチャンがいなくなったら、この世はどんどん腐っていきます。しかし、私たちは、この地にいるのですから、責任をもって、塩の役割を果たしていきましょう。

□ポイント2 あなたがたは世界の光です(14-15節)

イエスさまは、また「あなたがたは、世界の光です」ともおっしゃいました。もともと、「世の光」はイエスさまです(ヨハネ8:12)。私たちは、私たちの内に住んでくださるイエスさまの輝きを放ち、イエスさまの光を反射して輝くのです。

光の役割は、暗闇を照らし、明るくすることです。私たちはこの社会や人々の心が暗くなっていかないように、イエスさまの光で明るく照らすことができます。クリスチャンの輝きを見て、まわりの方がイエスさまを見出すことができるのです。暗闇で光が放たれると、必ず光が勝ちます(ヨハネ1:5)。暗闇が光を覆ってしまうことは絶対にありません。

「あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません」と言われているように、わざわざ隠すために光を用意する人はいません。私たちもイエスさまの輝きを持っているのに、隠してしまっては意味が無いのです。クリスチャンが輝かなければ、誰もイエスさまの希望を見出すことができず、愛のない冷たい世界になってしまうのです。この世界を明るく照らす、光の役割を、しっかり果たしていきましょう。

□ポイント3 あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい(16節)

クリスチャンの光を人々の前で輝かせましょう。学校やお友だちの前で、良い行いをするのは、簡単なことではありません(ふざけているお友だちを注意すること、一緒になって悪口を言わないこと、仲間はずれになっているお友だちを助けることなど)。実際に山の上でイエスさまの話を聞いていた人たちの中にも、イエスさまを信じたことによって迫害されていた人も多くいたのです(マタイ5:10~12を読みましょう)。イエスさまはその人たちに向かって、「あなたがたは地の塩・世界の光です」とおっしゃいました。

じつは、地の塩・世界の光の役割を果たすとき、必ずしも周りの人から褒められたり、感謝されたりするわけではありません。むしろ、からかわれたり、迫害されたりすることも多いのです。もともと、地の塩世の光として人々の前で良い行いをするのは、私たちが褒められたり、感謝されたりするためではありません。人々が神さまのすばらしさを知るためです。「あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい」とあるとおりです。クリスチャンは、例え迫害されても、隠れるのではなく、人々の前で輝いていくのです。それは、私たちが注目されるためではなく、イエスさまの御名がほめたたえられるためです。

□結論 イエスさまは「あなたがたは地の塩・世の光です」とおっしゃいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

みなさんの存在は、この地の塩、この世界の光です。その役割と責任をイキイキと果たしていきましょう!! あなたに塩味や、輝きを与えてくださるのはイエスさまです。

自分がクリスチャンだということを、お友だちに怖くて言えない人がいるかもしれません。お祈りして、イエスさまに勇気をもらいましょう。あなたは地の塩・世界の光という、すばらしいものですから、堂々とよいのです。イエスさまは、あなたを通して、そのすばらしさを表したいと望んでいらっしゃるのです。

イエスさまを信じた人は、すでに地の塩・世の光です。「地の塩になりなさい」とか「頑張って光りなさい」と言われているわけではありません。本当にイエスさまとの深い愛の関係の中にあるなら、私たちはもう、地の塩・世界の光なのです。頑張って何かをしようとするより、いつも聖霊さまに満たされ、イエスさま中心に生きていくことが大切です。

☞例話(必要に応じてメッセージに挿入しましょう)

◇食べ物の味付けに塩は欠かせません。私たちが食べる料理のほとんど全てのものに、塩が入っています。おにぎり・ハンバーグ・味噌汁・ラーメン・お寿司・スパゲティ・フライドポテトなど、塩味が無かったら、おいしくないですね。

◇塩は、料理に混ぜると透明になります。目立たなくても、何気ない行動で、イエスさまの愛の味(香り)を放つことができます。逆に塩は多すぎるとしょっぱくて、せっかくの料理が台無しになります。

◇おしるこのような甘いものにも塩が入っています。すいかに塩をかけると甘くなります。野菜をゆでるとき塩を入れます。これは、塩が食べ物の味を引き出す役割をするからです。クリスチャンは相手の味を引き出すことができます。ひとりぼっちで悲しんでいる人、傷ついて弱っている人のとなり人になって、その人がイエスさまの愛と希望で生き生きとするように、助けることができます。

◇長い洞窟の中を歩いているとき、私たちは不安になります。しかし、遠くに出口の光が見えたら、そこまで歩く元気が湧いてくるでしょう。私たちの輝きを見て、周りの人に元気になってもらいましょう。

◇暗い夜にろうそくの光をとると、温かい気持ちになりますね。イエスさまの愛の光が輝くと、私たちの心は温かくなります。